信念の正当化のための基本的方法としての「最良の説明への推論」

東京大学法学政治学研究科附属ビジネスロー・比較法政研究センター特任講師 小川 亮

本資料のアップロード先:https://www.slideshare.net/ssuser4b3585/211127

mail: ogawa.ryo@j.u-tokyo.ac.jp

本日の構成

- 1. 自己紹介
- 2. 最良の説明への推論
- 3. 進化論的暴露論法
- 4. 統合された認識論
- 5. 軽信性の原理
- 6. 理論的価値

自己紹介

専攻: 憲法学

公法学において疑われない前提の例

- 認識と評価 (価値判断) の峻別 (ex. 「ある法」と「あるべき法の区別」)
- 法学の他分野からの自律性(ドグマーティク)
- 文理の存在
- 自律だけが先験的な価値である
- 価値多元論
- → 分析哲学が貢献できる余地は大きい!

本報告の限界

- 基本はRonald Dworkin研究から出発したので、Dworkinに対する批判を含む Dworkin周り(法哲学界隈) はそれなりに詳しく勉強した
- William Lycanは、たまたま見つけて読んでみたら、これは「良い!」となったので 採用したに留まる。つまり、認識論については不勉強。

Lycanは認識論学界では古くなっていると思うが、現在はどう評価されているのか? 証拠主義と信頼性主義の対立の中でLycanはどう位置づけられるか? 説明主義はそれらの対立とどう関わるのか?([McCain 2014]を積読している) 認識論的保守主義が現在どのように評価されているか? 真理論界隈との議論と隔絶しているのでは? とりわけ真理が持つ価値(認識的価値)との関係。

→ とりあえずこの考え方良い感じでは!?と御提案して、 御意見・御指摘、文献の御教示をいただきたい

「最良の説明への推論」

最良の説明への推論

IBE: Inference to the Best Explanation

我々の経験を最良に説明する仮説は真である 仮説Hは我々の経験を最良に説明する したがって Hは真である。

最善かどうかの判断基準:理論的価値 (theoretical virtue, epistemic value, etc.)

証拠との適合性 背景的信念との整合性 単純性 多産性 (fruitfulness) etc.

※理論的価値のリスト化の作業は始まったばかり[Keas 2018]

IBEのヒューリスティック説

ベイズ主義者による批判

- IBEにおいて重視される単純性や多産性は真理とは無関係な要素であるから、IBEは認識的に不合理な推論である。
- 認識的に合理的な推論はベイズの定理に従った確率計算(ベイズ主義的推論)である

IBEのヒューリスティック説

- 現実の我々がベイズ主義的推論を正確に行うことは、事前確率・尤度・証拠の確率を同定できない、同定できるとしても確率計算が困難であるといった理由で困難である。
- 研究を進める際に差し当たり真として受け入れるべき作業仮説(working hypotheses)の選 定のためのヒューリスティックとしてIBEが有用である[Bird 2017][Dellsén 2018]。

本報告のねらい

IBEのヒューリスティック説をさらに推し進める

- 単純性や多産性といった価値はもちろん、その他、我々にとって説明が持つことが有益な 価値はすべて、その説明が真である蓋然性を高める。
 - → ベイズ主義は、適合性や整合性しか考えない点で片手落ちである。

より根本的な主張

我々がある命題が真であると考えるべきなのは、「その命題が真であると考える ことが判断者にとって最も有益である」場合であり、その場合のみである。

本報告の論証

- 1. 直観的信念に対する進化論的暴露論法は回避不可能なので、直観的信念に依拠してはならない。
 - → 信念体系内において正当化を循環させればよい
- 2. そのような認識論の例としての「統合された認識論」 信念体系の「外部」にある真理は、信念体系内部において正当化されることによってのみ存在し得る
- 3. 軽信性の原理:「最初に、真に見えるものを受け入れよ」の正当化を介した IBEの正当化 (口頭では省略)
- 4. 真として正当化されるものが真理である。その正当化の基準は真理の方ではなく我々が決める。結果として、我々に有用なものが真理となるべきであって、 その逆ではない (理論的価値と非理論的価値の峻別の否定)

進化論的暴露論法

直観的信念の脆弱性

進化論的暴露論法とは

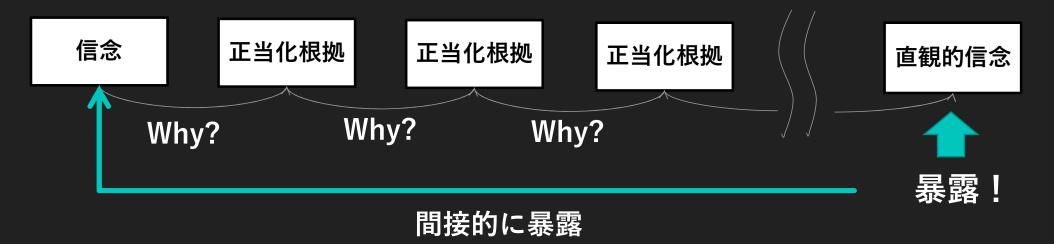
進化論的暴露論法

- 1. 我々の信念は進化論的影響の下で形成される。 ※進化論的影響 … … 生存と再生産に役立つような影響
- 2. 進化論的影響は真理追跡的 (truth tracking) ではない。
- 3. 我々の信念が真であるとは信頼できない。

進化論的暴露論法のより詳細な検討は、[小川 2019a: 80-91]

進化論的暴露論法の射程

進化論的暴露論法の対象は、それ以上に正当化根拠がない信念(直観的信念)に限定される[Kahane 2011: 106-107]。



→ 正当化を循環させればよい

統合された認識論

信念体系内で循環した正当化

統合された認識論

「我々には統合された認識論が必要である。すなわち、我々は、何が真であるかを決定する方法についての理論をテストするために、何が真であるかについての想定をしなければならない。…知的構造の全体が、相互に適合し、合致している。」[Dworkin 2011: 82-83]

「いかなる知的領域のいかなる種類の真理にしても、それを発見する我々の能力を確証するために、最終的に循環しない方法など存在しない。我々は科学における判断を確証するために実験と観察に依拠している。しかし実験と観察が信頼できるのは、因果性と光学に関する基本的な想定が真であるからに過ぎないが、その想定を確証するために我々が依拠しているのは科学自体であって、何かそれより基本的なものではない。また、当然ながら、外界の性質に関する我々の判断すべては、さらに根本的には、外界が存在するという普遍的に共有されている想定に基づいているのだが、その想定は科学それ自体が確証できるものではない。」[Dworkin 2013: 15-16=25-26]

批判に対する応答

- Q. 誰もが自らの信念体系内で正当化されたことを真理として語るのであれば、何かが「客観的に」真である、ということはあり得ないのでは?
 - A. このような疑問は、誰の視点でもない視点に立つことが可能であることを前提とした「アルキメデス主義」的批判である。そのようなことは不可能である。そもそも、「客観的に真である」とは、「その主張者の信念体系内において普遍的に妥当するものとして正当化される」という意味でしかありえない。

まとめ

• 正当化を信念体系内において循環させることで、すべての信念を 正当化できる(質問に対する回答を直接に前提とする悪質な循環論法はダメ)

「ある人が、Pであるというその人の信念が本当に真であるという証拠を持つのは、その人がPであるという証拠を持つときである。それに加えて、その人の知覚と概念枠組みから一歩踏み出して、何らか人間には不可能な形で裸の現実を見つめるという壮大な偉業を成し遂げる必要はない。」[Lycan 1988: 137]

軽信性の原理

自生的信念の正当化

IBEの正当化方法

IBEの大前提:

「我々の経験を最良に説明する仮説は真である」

- ①大前提を別の推論規則、すなわち枚挙的帰納法やベイズ主義的推論によって正当 化する [Shogenji 2000][Douven 2002]
- ②大前提は、個別の推論によって得られたわけではない信念、つまり「自生的信念」[Lycan 1988: 165]であるところ、自生的信念を一般的な形で正当化できる。
 - ※ 直観的信念 それ以上に正当化の無い信念 自生的信念 個別の推論によって得られたわけではない信念。例:直観や感覚に基づく信念

軽信性の原理

軽信性の原理(Principle of Credulity):

「最初に、真に見えるものを受け入れよ」 [Lycan 1988: 165]

正当化1:背理法

正当化2:保守性(conservativeness)

- ① P:個別に正当化のない命題は偽である
- ② Pに個別の正当化はない したがって
- ③ Pは偽である

気まぐれな信念の変化及びそれに基づく様々な社会的変化は、無駄に資源を消費して混乱を引き起こすだけである。特に理由がない限り、信念を変化させるべきではない[Lycan 1988: 142]



自生的信念はデフォルトとして、そしてデフォルトとしてのみ、 正当化されている。 I B E の大前提もまた然り。あとは I B E の大前提に I B E を適用するなりなんなりで正当化すればよい。

理論的価値

真理のプラグマティズム説?

なぜ単純性・多産性は理論的価値なのか

内在的理論的価値

[Steel 2010: 18-19]

その価値を持つことが、真理の獲得を構成する、あるいはある言明が真であるための必要 条件となるような価値

外在的理論的価値

それ自体が真理の指標であったり必要条件であったりはしないものの、真理の獲得を促進するような価値(あった方が良いがなくても良い)

単純性

- ・過剰適合(overfitting)の抑止
- ・検証可能性への寄与

多産性

・研究それ自体の促進 (議論の体系化、予算の獲得 etc.)

真理のプラグマティズム説(?)

- ① 我々は、真理が真であるという理由だけで追究しているわけではない。むしろ、何らかの目的のために、真理を追究している。すなわち、何か有益な情報を得ようとしているのである。そして、単純性は、それを具えた理論を、単に真理寄与的にするだけでなく、扱いやすくすることなどによって、より有益なものにする。
- ② 何かが真であると信じるべき理由があるのであれば、真であると考えるべき理由はそれで足りる。上記のような形で理論選択の基準として単純性がふさわしく、それを否定する理由がないのであれば、単純性をも理由として理論が選択されるべきである。

[Lycan 1998]など



信念体系内で正当化されるものが、その結果として真になる。逆に言えば、 その正当化の基準を真理は決定しない。とすれば、その正当化基準に有益か どうかを含めるのを阻む考慮は、少なくとも真理の側からは出てこない。

真理のプラグマティズム説(?)批判

真理のプラグマティズム説(pragmatic theory of truth)は、実際には自分の身長が170cmであるにもかかわらず、自己評価を高めるために、自分の身長は180cmであると考えるべき理由があるとする(とされる) [Steel 2010: 21]

…… 論点先取では?

- ① 「実際には自分の身長が170cmである」と考えるべき理由がある \rightarrow 「実際には自分の身長が170cmである」と考えるべきである
- ② 「実際には自分の身長が170cmである」と考えるべき理由は特にない \rightarrow 「自分の身長は180cmである」と考えても問題はない

証拠主義への応答

証拠主義

「命題Pを信じるべきなのは、その人の証拠が十分にPを支持するときのみであり、かつ、Pの 証拠のみが、Pを信じるべき理由となる。 |

応答

「Pの証拠は、通常は、それを信じる理由になる。結局のところ、真理を信じることは、典型 的に有用でありかつ有益である――真理を信じることは、日常(食料品店に行く、正しい保険証券を 購入する等々)から理論(数学や論理学で新たな結論を証明する、サンゴ礁の機能を解明する等々)まで、 様々 な生活領域にかけて、我々のプロジェクトの追求の成功に資する。」[Rinard 2019: 1930]



内在的理論的価値と外在的理論的価値の区別はそれが我々に とって有用である、という理由で維持できる。

結論

- ◆ 単純性や多産性といった価値はもちろん、その他、我々にとって説明が持つことが 有益な価値はすべて、その説明が真である蓋然性を高める。
 - ……というよりも、そのようなものが「真理」として定義される。
- ◆ 我々がある命題が真であると考えるべきなのは、「その命題が真であると考える ことが判断者にとって最も有益である」場合であり、その場合のみである。
 - …… 我々が真理を追究するのは我々にとって有益であるという理由なので、そうなる。

本報告の引用文献

Bird, Alexander 2017, "Inference to the Best Explanation, Bayesianism, and Knowledge", in *Best Explanations*, Kevin McCain and Ted Poston (eds.), Oxford University Press.

Dellsén, Finnur 2018, "The Heuristic Conception of Inference to the Best Explanation", Philosophical Studies 175.

Douven, Igor 2002, "Testing Inference to the Best Explanation", Synthese 130.

Dworkin, Ronald 2011, *Justice for Hedgehogs*, Harvard University Press.

——2013, Religion without God, Harvard University Press(森村進訳『神なき宗教』(筑摩書房、2014)).

Kahane, Guy 2011, "Evolutionary Debunking Arguments" noûs 45(1).

Keas, Michael N. 2018, "Systematizing the theoretical virtues", Synthese 195.

Lycan, William G. 1988, Judgment and Justification, Cambridge University Press.

——1998, "Theoretical (Epistemic) Virtues", in *Routledge Encyclopedia of Philosophy*, Edward Craig (ed.), Routledge.

McCain, Kevin 2014, Evidentialism and Epistemic Justification, Routledge.

Rinard Susanna 2019, "Equal Treatment for belief", Philosophical Studies 176.

Shogenji Tomoji 2000, "Self-Dependent Justification Without Circularity", British Journal for the Philosophy of Science 51. Steel, Daniel 2010, "Epistemic Values and the Argument from Inductive Risk", Philosophy of Science 77(1).

小川亮 2019a, 「どこまでも主観的な解釈の方法論」法と哲学第 5 号 —— 2019b, 「ロナルド・ドゥオーキンの解釈方法論の分析とその擁護」国家学会 雑誌132巻11・12号。

ありうる質問への応答(1)

- Q. あなたは科学的orメタ倫理的相対主義者なのですか。
 - A. いいえ、違います。誰にとっても妥当するという意味で普遍的な真理は存在すると考えています。そのように考えることが規範に関する議論を可能にする点で有用だからです [小川亮 2019b: 133-134]。
- Q. あなたは科学的orメタ倫理的非実在論者なのですか。
 - A. いいえ、その双方について実在論者です。なぜなら、科学的事実や道徳的価値の実在は、信念体系内在的に正当化することが可能だと考えているからです(後者につき、[小川 2019a: 95-109])。

ありうる質問への応答(2)

- Q. そうはいっても、信念から独立した真理を認めないあなたは、や はり非実在論者ではありませんか。
 - A. そこでいう「信念から独立した」の意味合いが問題になります。

第一に、私の見解が、最善に正当化された信念すらそれに照らして誤り得る「真理」の存在を認めないのは確かです。しかしながら、そのような「真理」は我々にとって全く無意味であり、無関係です。そもそも、実在論者の典型的な方法論であるIBEによる論証は、そのような真理を主張するものではありえません。

第二に、私の見解では、誤った推論や事実誤認に基づいて正当化を受け入れてもそれによって信念が真になるわけではありません。このような見解は、現実の信念に真理を依存させない点で、真理は信念から独立していると言うことができます[小川 2019b: 145-146]。

ありうる質問への応答(3)

- Q. あなたの見解に基づけば、人々は信念体系内で正当化された意見 をぶつけ合うだけになりませんか。
 - A. そうなるかどうかは私の見解を採用するか否かとは関係がありません。もし強い実在論を 採用したとしても、人々は論争を続けるでしょう。

なお、その論争の中で、「私の議論こそ「客観的に」真である」と主張することを(正当化が十分な場合には)可能にする役割を私の実在論は十分に果たします[小川亮 2019b: 133-134]。

ありうる質問への応答(4)

- Q. あなたの見解は、「世界は我々から独立して存在する」という強い実在論的な直観を無視していませんか。
 - A. 結果的に無視しています。その直観は自生的信念ですから、デフォルトとしてのみ正当化されます。私の実在論はその有用性により正当化されるので、デフォルトを維持する必要はありません。したがって、その直観に基づく自生的信念は否定されます。

ありうる質問への応答(5)

Q. 「有用性」という言葉に真理の基準を還元しようとしていますが、 つまるところそれは何ですか。

A. 本人にとって良いすべての価値を指します。基本的には、福利 (well-being) を想定しています。

道徳的価値や美的価値はどうなるのか、という問題がありますが、これらの価値は結局のところ福利に還元されるか、または福利を増大させるための手段的価値だと考えています。さらに、福利の内実については快楽説を支持しておりますので、あらゆる価値はそれ自体快楽であるか、あるいは快楽説を増大させるための手段的価値であると考えています。この理論的価値の快楽説的構想については、まだアイディア段階ですので、今後、研究を深めて論文を執筆したいと考えております。